



平成24年度

国際海事機関(IMO)と連携した PSC 地域組織への
専門家派遣

南米 PSC 地域組織への専門家派遣

事業報告書



公益財団法人 東京エムオウユウ事務局

目次

I	事業の目的	-----	3
II	平成 24 年度の活動概要	-----	4
III	今後の予定と課題	-----	6

添付資料

1	エクアドルでの事前調査報告書	-----	7
2	エクアドルでの研修報告書	-----	21

I 事業の目的

公益財団法人東京エムオウユウ事務局は、「アジア太平洋地域の寄港国検査（Port State Control : PSC）に関する覚書」が1993年12月に締結されたのを契機に、設立され、2013年で20周年を迎えます。この覚書は東京で締結されたため、通称、「東京MOU」と呼ばれています。現在18カ国・地域が加盟していますが、東京MOUの目的は加盟した海事当局が協力してサブスタンダード（基準不適合）船を撲滅し、海上安全や海洋環境の保全を確保することです。

この目的を達成するには、PSCを執行する各国職員の養成や能力向上が不可欠であり、本財団は、1994年の設立以来、域内各国で研修やセミナーを実施してきました。この効果もあり、東京MOU域内の検査件数は、先行した欧州のPSC地域組織（通称パリMOU、1982年設立）に肩を並べるまでになりました。また、最近では、国際海事機関（IMO）の要請を受け、発展途上にある世界各地のPSC地域組織からの研修生を本財団が主催する研修コースに受け入れています。

東京MOU域内の検査件数は伸びて来ましたが、中国などの経済発展により入域隻数は近年大幅に増え、検査できない船も多く存在します。東京MOU域内の検査体制を一層強化する必要がありますが、各国とも職員の大幅な増員は難しい状況です。また、研修等によって検査技術の向上を図り効率を上げる努力も続けていますが、限界もあります。

このため、隣接する地域組織と連携を図り、東京MOU地域と隣接地域を往来する船舶に対する検査を確実に実施することが適切と考えました。この連携を実現するため、日本財団の支援を得て、検査技術・件数も十分とは言えない隣接するPSC地域組織に東京MOU域内の専門家を派遣し、能力アップを図る事業を始めることとしました。まず、インド洋地域に対し、平成21年度から23年度まで3カ年計画で実施しました。研修実施各国では検査件数が増えた等の成果が上がっています。

インド洋地域への事業を行った際、国際海事機関（IMO）が本事業の有益性を把握し、研修参加者に対する旅費を支援してくれるようになりました。このため、平成24年度からはIMOと連携を前提に3カ年計画で南米地域へ専門家を派遣、現地で研修を実施することとしています。本報告書は、南米地域への専門家派遣事業の初年度の活動をまとめたものです。

II 平成24年度の活動概要

1. 事前準備

平成24年4月16～19日にチリのヴィニリアデルマールで開催された東京MOU・PSC委員会の際、エクアドルへの専門家派遣について各国に打診したところ、豪州、チリ、カナダ、日本が前向きな姿勢を示したので、これらの各国から1名ずつ合計4名の専門家を派遣することにしました。また、現地で研修開催国及び専門家との調整を行うため、当財団職員1名を同国に派遣することにしました。

2. エクアドルへの事前調査

平成24年10月9～12日に、エクアドルのグアヤキルを訪問し、研修計画について協議を行うとともに、研修施設の調査を行いました。当該協議において、研修を平成25年3月11日～22日に開催することで合意しました。事前調査の詳細については、**添付1**をご覧ください。

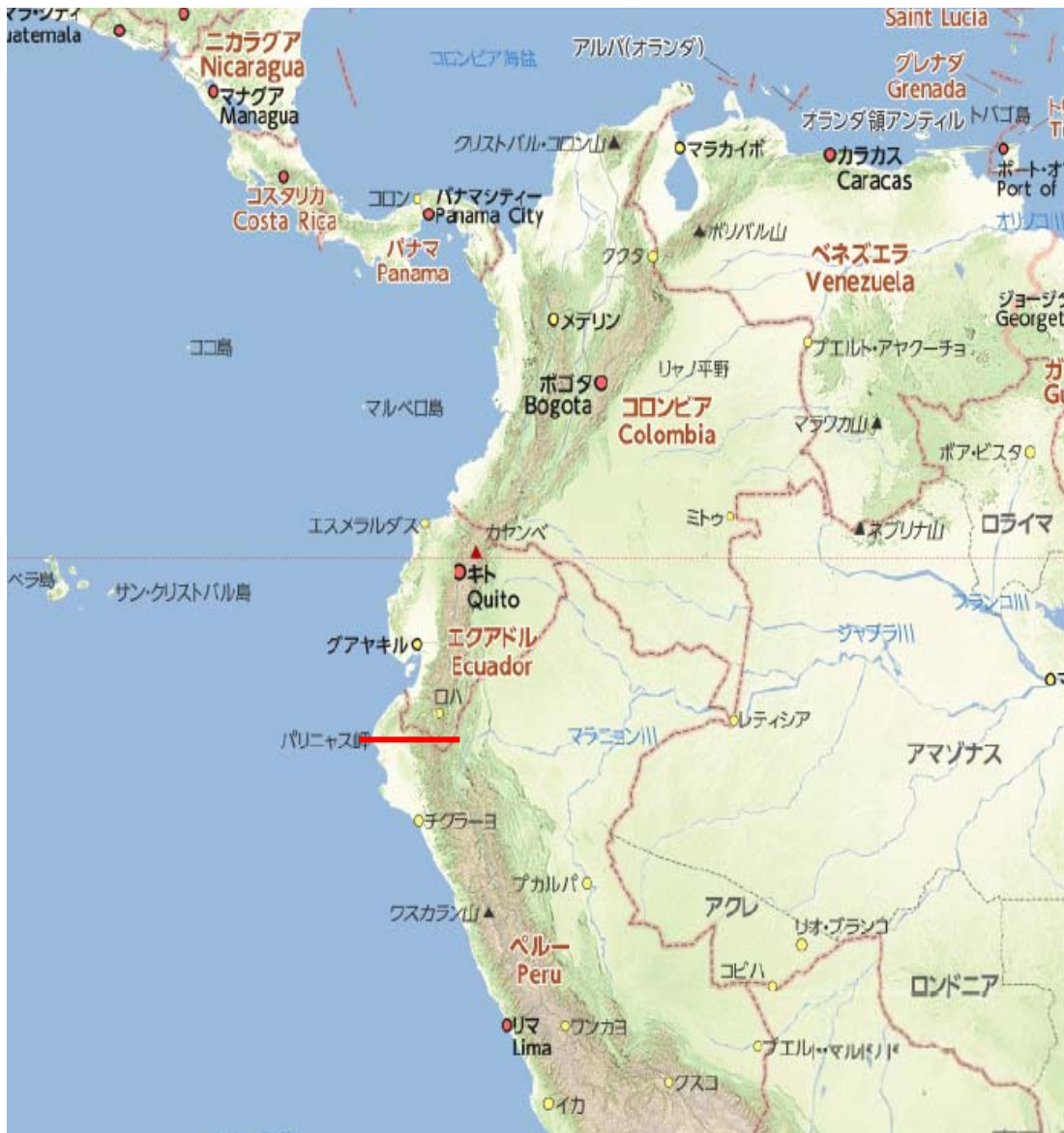
3. エクアドル・グアヤキルでの研修

- 1) 研修は平成25年3月11日～22日に開催されました。昨年度の南アフリカでの研修に引き続き、国際海事機関（IMO）が南米PSC地域組織以外からの参加者5名（但しナイジェリアから参加予定の1名は直前参加取りやめ）と南米PSC地域組織地域内からの参加者2名、合計7名の旅費を負担してくれることになりました。
- 2) 参加者は合計18名で、南米PSC地域組織からは、エクアドル5名、アルゼンチン2名、チリ1名、ブラジル1名、コロンビア1名、パナマ1名、ペルー1名、キューバ1名（IMO負担）、ベネズエラ1名（IMO負担）、域外からは、トルコ2名、インド1名、ジャマイカ1名が参加しました。
- 3) 研修準備に当たっては、過去3年間のインド洋MOU（イラン、インド、ケニア及び南アフリカ）での研修結果を考慮し、研修生の経験・レベルに応じ、柔軟な講義とするため、ケーススタディ等の充実を図りました。
- 4) 南米PSC地域組織事務局から要請のあった、「満載喫水線に関する国際条約」「PSCにおける人間工学(Human Factors)に関する講義」「ばら積み貨物船」に関する集中講義を行いました。
- 5) 研修は無事終了し、多くの参加者から、自国にはPSCに特化した研修がなく、東京MOUの専門家による研修の継続を望む声がありました。グアヤキル研修の詳細については、**添付2**をご覧ください。専門家を派遣していただいた豪州、カナダ、チリ及び日本の海事当局に感謝いたします。

4. 成果

エクアドルのPSCは、2013年3月に海軍から運輸公共事業省に移譲され、十分な体制が確立されていません。このため、エクアドル当局が今回の研修のエクアドルでの招致を働きかけ、エクアドルでの研修開催となりました。エクアドルからは5名のPSC職員が研修に参加しました。今後、彼らがエクアドルのPSC活動発展の原動力となると考えています。

また、他の参加者についても、PSCに特化した今回のような研修を受けたことが無いとのことであり、今回研修で得た正しい知識やスキルを自国に帰り普及してくれると考えています。PSCに特化した国際的研修を行っている機関は少なく、IMOも今回研修を支援してくれました。



III 今後の予定と課題

初年度は、エクアドルへ専門家を派遣し研修を行いました。インド洋MOUでのケニア、南アフリカでの研修に引き続き、東京MOUによる南米初のPSC研修もIMOの目の留まるどころとなり、IMOは合計6名（内、南米PSC地域組織地域内2名）の資金援助（研修参加旅費）をしました。次年度は、アルゼンチンに専門家を派遣し研修を実施する予定です。このため、アルゼンチンに事前調査団を派遣し、開催場所やカリキュラムの編成等について協議するとともに、専門家の手配についても関係国と調整します。また、IMOと研修参加に対する旅費支援についても協議を進めます。さらに、研修の成果を数値的に評価するため、PSC検査データ等の分析を進めます。なお、南米PSC地域組織では、PSC検索データをリアルタイムで公表する等のシステムが未整備であり、東京MOUの事例等を紹介するなど、整備に協力していきたいと考えています。

なお、昨年まで支援してきたインド洋 MOU について、インド洋 MOU のメンバーである豪州政府がインド洋 MOU 事務局に資金を供与し、同地域での研修プロジェクトが 2014 年から開始されることになりました。本プログラムは、本財団が実施した研修により、インド洋 MOU 各国が研修の重要性を認識し、実現してものです。インド洋 MOU 事務局から、研修実施に際しての協力（専門家の手配、カリキュラム編成等）依頼されており、協力する予定です。

添付 1

エクアドルの事前調査報告書

現地日程表

日	項目	場所
2012年10月8日(月)	移動(成田～ダラス～マイアミ～グアヤキル)	
2012年10月9日(火)	グアヤキル海事局(Undersecretariat of Ports and Sea & River Transport)訪問(出席者名簿は別紙1) エクアドルでの研修計画打ち合わせ グアヤキル港視察	グアヤキル
2012年10月10日(水)	マンタ港視察	
2012年10月11日(木)	エクアドルの研修計画打ち合わせ	グアヤキル
2012年10月12日(金)	調査報告まとめ等	グアヤキル
2012年10月13日(土)	移動(グアヤキル～マイアミ～シカゴ～成田 15日着)	

1. 調査場所

グアヤキル（グアヤキル海事局、港湾施設、研修施設、市内宿泊施設等）

2. 現地調査派遣者

岡田 光豊 公益財団法人 東京エムオウユウ事務局 顧問

(Secretary of the Tokyo MOU Secretariat)

秋元 文子 公益財団法人 東京エムオウユウ事務局 業務課長

(Projects Officer of the Tokyo MOU Secretariat)

3. 調査概要

3.1 エクアドル海事局との会議（10月9日及び10月11日）

10月9日午前 Oscar Noe 局長等と会議を持った。Óscar Noé Vargas 局長から、このような地域間協力、PSC 検査官研修の実績とノウハウを持つ東京エムオウユウからの支援は歓迎するとの謝辞が述べられた。

東京エムオウユウ事務局が東京エムオウユウの活動状況・技術協力プログラムを紹介し、インド洋地域での研修（イラン・インド・ケニア・南アフリカ）での研修の概要を説明した。

事前に送ってあった計画表と暫定時間割に基づき、早速個々の項目について打ち合わせを開始した。2日間の打ち合わせで、確認・合意したことは以下の項目である。

3.1.1 トレーニングコースの日程

2013年3月11日（月）～22日（金）

3.1.2 トレーニングコースの場所

グアヤキル市内のホテル（再有力候補は Hotel Ramada）

可能性としては低いですが、以下の案も提示された。

① グアヤキルエクアドル海軍施設である Navy Club の講堂で講義部分のみを実施する。宿泊は市内のホテル。

② マンタ（グアヤキル北西の港）港湾局(Port Authority)の施設にて、2週間の研修をすべて行う案。宿泊はマンタ市内のホテル。客船の入港があるため。

3.1.3 参加国・参加者数

① エクアドルからは5名、他の南米PSC地域組織加盟国からは1名ずつ計12名を予定している。

- ② 東京エムオウユウ事務局は、IMO がグアヤキル研修へも、2011年2月のケニア研修及び2012年3月の南ア研修と同様に、他6地域からのそれぞれ1名の参加者への費用負担を前向きに検討していることを伝えた。エクアドルは、他のMOUのPSC検査官の参加もエクアドルは歓迎するとのことだった。
- ③ ①と②から、参加者は計23名となる予定。

3.1.4 参加者のレベル

原則として、中級もしくは初心者を対象とする。東京エムオウユウ事務局は南米PSC地域組織事務局とIMOに、参加者を募る際に各国に周知するよう依頼する。

3.1.5 講師

4人確保する。

エクアドルは講師の国籍は問わない。また、東京エムオウユウ事務局が講師として想定しているカナダ、日本、チリ、オーストラリア等は査証不要であることを確認した。

3.1.6 時間割

①座学

(ア) 事前に提示してあった案でほぼ合意。ただ、南米PSC地域組織事務局と東京エムオウユウ事務局との事前のやりとりでは、**Human elements, bulk carriers, Load Lines, Passenger ships**の4つのテーマのうち、2科目の集中講義をして欲しいとのことだったが、エクアドルからは、3つをカバーしてほしいと要望があった。話し合いの結果、1) **Human elements**, 2) **Bulk Carriers**, 3) **Load Lines**の集中講義をすることで合意した。

(イ) 東京エムオウユウ事務局は集中講義のテーマを考慮し、講師を選ぶことを伝えた。

②実船訓練

(ア) 実船訓練も案のとおり1回で合意。

(イ) 東京エムオウユウ事務局は、参加者を専門家の数である4グループに分け、それぞれのグループにエクアドルのPSC官を最低1名配置し、そのPSC官がPSCを行い、専門家は彼らのPSCを観察し、PSCの後、参加者を交えグループ毎に討議する方法を取ることを説明した。

(ウ) 実習船の数が確保できない場合は、Virtual PSC等を行う。

(エ) グアヤキルはエクアドルで最も入港隻数が多い港であり、実習船数の確保には問題がないが、コンテナ船が半分以上を占める（2012年3月のグアヤキルへの入港実績下記3.3.2参照。）

(オ) マンタ港には客船が入港するので、エクアドル側から、客船が入港する情報が事前にキャッチできれば、マンタ港までバスを手配し客船のPSCを行いたいとの意向が示された。しかし東京エムオウユウ事務局は、マンタまでは片道3時間かかることと、客船のPSCには、客船の大きさに応じてかなり多くのエクアドルPSCOが必要なこと、入港隻数がグアヤキルに比べ少ないこと等を鑑み、否定的な見解を伝えた。マンタは現在国内空港として運用されており、首都キトとを結ぶ航空便は1日8便程度とのことだった。

③ 合意された時間割は別紙2のとおり。

3.1.7 費用分担

エクアドルが以下の費用を負担することで合意した。

- ① トレーニング名、スポンサーなどを記したバナー
- ② 研修施設にかかる費用
- ③ 資料作成（コピー、バインダー等）
- ④ 昼食（Vina del Mar Agreement 加盟国参加者は自己負担）
- ⑤ 1日2回のコーヒーブレイク
- ⑥ 研修生及び講師の空港ホテル間の送迎
- ⑦ 実船訓練の移動費
- ⑧ 研修生および講師用ヘルメット、軍手、耳栓（作業衣と安全靴は各自持参）
- ⑨ 半日もしくは1日の市内観光

3.1.8 その他

- ① 言語
参加者の大半がスペイン語が母国語であり、またエクアドルの検査官には英語が不得手な人が多く、英語での実施に懸念が示されたが、東京エムオウユウ事務局は研修は英語でおこなうことに理解を求めた。
- ② 研修・宿泊施設
東京エムオウユウ事務局は、朝食込でインターネットへのアクセスがしやすい場所にしてほしいとの希望を伝えた。最終的には、ホスト国であるエクアドルが場所を決める。

3.2 エクアドルの組織

- ① グアヤキル海事局 (Subsecretaría de Puertos y Transporte Marítimo y Fluvial、英語名 Undersecretariat of Ports and Sea & River Transport) は運輸公共事業省 (Ministerio de Transport y Obras Públicas) に属する。海事局長は、Óscar Noé Vargas 氏。
- ② PSC は 2012 年 3 月に海軍から委譲された。
- ③ 現在 PSC 官は 6 名。全員が旗国検査官等との兼任。2013 年 1 月頃までに 12 名に増員する予定である。そのために今回のトレーニングを有効に活用したい。
- ④ 港は北から Esmeraldas, Manta, Guayguil 及び Bolivar の 4 港で、グアヤキルが最大。現在各港に支局はなく、PSC 検査官はグアヤキルの本省に駐在し、PSC に出向いているので、効率はよくない模様。
- ⑤ 現在、2013 年早々には各港に支局を置くべく、各港に事務所を探している。これにともない、海事局も同時期に町の中心に移転予定。

3.2 グアヤキル港視察 (10 月 9 日午後)

3.2.1 グアヤキル港のをコンテナ専用ターミナルを視察した。グアヤキルはエクアドル最大のコンテナ取扱量を誇る。コンテナターミナルは CONTECON という組織が管理している。CONTECON からターミナルで取り扱う貨物等について、説明を受けた。貨物量の最大はバナナである。2011 年は、100 万 TEU (twenty-foot equivalent unit、20 フィートコンテナ換算) の取り扱いがあった。

3.2.2 2012 年 3 月グアヤキル港入港実績は以下のとおり。

Full container	Reefer	General cargo	Panamax	Ro-ro
46	4	25	2	2

3.3 マンタ港視察 (10 月 10 日)

3.2.1 3 時間かけて、マンタ港へ行った。グアヤキルに代わる研修開催地もしくは実船訓練のみを実施する場所の候補となっている。港湾局を訪問し、マンタではコンテナ化を推進しており、12 メートルの水深と、エクアドルの中央に位置しアクセスがよい利点を生かすべく、長期計画で開発を進めている。

3.2.2 現時点では、マンタ港での最大の取り扱い貨物は魚である。したがって、漁船が全入港船の半数以上を常に占め、PSC 対象船は少ないが、客船(2012 年 3 月入港実績は 4

隻)等入港する船種がグアヤキルよりも多いので、実船訓練には適するとエクアドル側は考えているようだった。視察した日も漁船のみが入港していた(5-6隻)。研修の講義部分もマンタで実施する場合は、港湾局の講堂を借りられるとのことであった。東京エムオウユウ事務局は、何らかの理由でグアヤキルでの研修が不可能になった場合の候補地との認識を持った。

3.4 エクアドルにおける検査体制及び検査実績は以下の通りである。

過去3年の検査実績は以下の通りである。

西暦	検査件数	欠陥数	航行停止処分数	航行停止処分率
2009	40	76	0	0.00%
2010	91	95	2	2.19%
2011	140	172	2	1.43%

参考：Vina del Mar 地域全体

西暦	検査件数	欠陥数	航行停止処分数	航行停止処分率
2008	7,627	22,176	136	1.78%
2010	8,586	20,942	108	1.25%
2011	8,710	23,153	107	1.23%

3.5 グアヤキル一般情報

- ① グアヤキル(Santiago de Guayaquil)は、エクアドル最大の都市にして最大の港湾都市である。グアヤキル湾に注ぐグアヤス川の河口から約60Km上流の沖積地(一部河口州)に位置し、2003年当時の人口は2,196,800人で周縁地区を合わせると300万人の人口を擁する。グアヤス州の州都でもある、南米有数の世界都市。グアヤキル港はスル地区最南部にあり、主な取り扱い貨物はバナナ、カカオなどの農産物である。2007年に一部がコンテナ専用埠頭に改装され、現在ではエクアドル最大のコンテナ取扱量となっている。
- ② グアヤキル中心部を昼間は歩いても問題ないが、バスや流しのタクシーを利用するのは避けたほうがよい。平成24年8月末現在、外務省より、「十分注意してください」が継続して発出されている。ホテルに頼むと、信頼のおけるタクシー会社の車を手配してくれるが、それでもぼったくられる可能性は高い。料金は約5kmでUS\$5程度。
- ③ グアヤキルの3月は雨期に当たり、蒸し暑い。最高気温は32度、最低は23度。
- ④ 英語を解する人はまれ。



エクアドル海事局グアヤキル本部にて会合



同会合出席者



エクアドル海事局グアヤキル本部



グアヤキル港コンテナターミナル



グアヤキル港視察



東京エムオウユウ活動報告



海軍施設の講堂（講義用教室候補）



研修会場候補ホテル



マンタ港視察



マンタ港



グアヤキル市街



グアヤキル市街

事務局訪問が掲載されたエクアドル運輸公共事業省 (Ministerio de Transporte y Obras Públicas)のサイト

Ecuador recibe la visita del Secretario del Memorando de Entendimiento de Tokyo | Ministerio de Transporte y Obras Públicas




Inicio El Ministerio Transparencia Programas / Servicios Comunicamos Biblioteca ¡Participa! Contacto

Inicio > Comunicamos > Noticias > Ecuador recibe la visita del Secretario del Memorando de Entendimiento de Tokyo

Noticias

Hoy Mantenimiento por resultados de la vía Zamora – Gualaquiza registra un 86% de avance físico	Este mes Primer Mandatario y Ministra Duarte inauguraron vía Méndez – San José de Morona en Patuca	2012
Días anteriores Primer Mandatario y Ministra Duarte inauguraron vía Méndez – San José de Morona en Patuca	Septiembre MTOPE habilita por completo el paso vehicular en la carretera Gualaquiza – Plan de Milagro – Limón	2011 2010 2009 2008

[Guayaquil, 17 de octubre de 2012]

Ecuador recibe la visita del Secretario del Memorando de Entendimiento de Tokyo

La Subsecretaría de Puertos y Transporte Marítimo y Fluvial recibió la visita del Secretario del Memorando de Entendimiento de Tokyo (MoU Tokyo), señor Mitsutoyo Okada y de la señora Oficial de Proyectos, Fumiko Akimoto, quienes en reuniones llevadas a efecto del 09 al 11 de octubre de 2012, programaron la organización del Curso de Entrenamiento del Estado Rector del Puerto, capacitación dirigida a los Inspectores de la Autoridad Marítima, de acuerdo al compromiso adquirido como Estado miembro del Acuerdo de Viña del Mar.

El curso se llevará a cabo en el mes de marzo de 2013 y asistirán delegados de los países miembros del Acuerdo de Viña del Mar (Argentina, Brasil, Bolivia, Chile, Colombia, Cuba, Ecuador, Honduras, México, Panamá, Perú, Uruguay y Venezuela) y participantes de otros Memorandos de Entendimiento, con el liderazgo e instrucción de expertos de Canadá, Australia, entre otros, siendo uno de los principales requisitos para recibir el curso, el dominio del idioma inglés.

El Ecuador como país miembro del Acuerdo de Viña del Mar, a través de la Subsecretaría de Puertos y Transporte Marítimo y Fluvial, debe disponer de Inspectores que supervisen a los buques de bandera extranjera que ingresan al país cumplan todas las disposiciones de los convenios internacionales a los cuales está adherido el Ecuador, con el fin de preservar la protección del medio marino y la seguridad de la vida humana en el mar, tanto en aguas territoriales como de la región.

La comisión estuvo conformada por delegados expertos en los convenios internacionales y en la realización de Inspecciones y estuvo liderada por el Ing. Oscar Noe Vargas, Subsecretario de Puertos y Transporte Marítimo y Fluvial.

Subsecretaría de Puertos y Transporte Marítimo y Fluvial
Ministerio de Transporte y Obras Públicas



GOBIERNO NACIONAL DE LA REPUBLICA DEL ECUADOR

Presidencia El Presidente La Presidencia Palacio de Gobierno	Secretarías Nacionales Administración Pública Agua Desarrollo Amazónico Educación Superior, Ciencia, Tecnología e Innovación Comunicación Gestión de Riesgos	Ministerios Coordinadores Desarrollo Social Patrimonio, Natural y Cultural Política Económica Política y Gobiernos Autónomos Descentralizados Producción, Empleo y Competitividad Sector Estratégico	Ministerios Agricultura, Ganadería, Acuicultura y Pesca Ambiente Cultura Defensa Nacional Deporte Desarrollo Urbano y Vivienda	Inclusión Económica y Social Industrias y Productividad Interior Justicia, Derechos Humanos y Cultos Recursos Naturales no Renovables Relaciones Exteriores, Comercio e Integración Relaciones Laborales
--	---	--	---	--

[http://www.obraspublicas.gob.ec/?p=4061/ecuador-recibe-la-visita-del-secretario-del-memorando-de-entendimiento-de-tokyo\[2012/10/19 13:18:19\]](http://www.obraspublicas.gob.ec/?p=4061/ecuador-recibe-la-visita-del-secretario-del-memorando-de-entendimiento-de-tokyo[2012/10/19 13:18:19])

別紙 1

グアヤキルでのミーティング出席者名簿

- Mr. Óscar Noé Vargas, Undersecretary of Undersecretariat of Ports and Sea & River Transport
- Mr. Fernando Añazo, Advisor of Undersecretary of Undersecretariat of Ports and Sea & River Transport
- Ms. Jacline Espinoza Bustamante, International Agreements of Undersecretary of Undersecretariat of Ports and Sea & River Transport
- Cap. Juan Claudio Robalino Larrea, Coordinator of Maritime Protection
- Mr. Carlos Fabian Larrea Recalde, Inspector

別紙 2

Tentative Time Table of Expert Mission in Guayaquil, Ecuador

Date		Activity and Subject	Instructor
	10-mar-2013/Sun	Arrival of experts and participants	Reception at airport by Ecuadorian Authorities
1	11- mar-2013 Mon	08:30 – 09:00 Meeting with the host Authority 09:00 – 10:30 Opening Ceremony and Introduction (Remarks by host Authority, TMS and an expert; and self introduction of participants) 10:30 – 11:00 Coffee break 11:00 – 12:00 PSC activities in Ecuador (Presentation of Ecuador about PSC) 12:00 – 13:00 Topics of Tokyo MOU 13:00 – 14:00 Lunch 14:00 – 15:00 Relevant Instrument Overview (SOLAS, MARPOL, LL, STCW, COLREG, Tonnage, AFS) 15:00 – 15:30 Coffee Break. 15:30 -- 16:30 Relevant Instrument Overview (IMO Resolution A. 1052(27) and MLC2006)	Ecuador Tokyo MOU Australia Australia
2	12-mar-2013 Tue	08:30 – 09:00 RECAP 09:00 – 10:30 PSC Guidelines for SOLAS I, II-1 and II-2 10:30 – 11:00 Coffee Break 11:00 – 12:00 Continue: PSC Guidelines for SOLAS I, II-1 and II-2 12:00 – 13:00 Operational Requirements 13:00 – 14:00 Lunch 14:00 – 15:00 PSC Guidelines for SOLAS III, IV and V 15:00 – 15:30 Coffee Break 15:30 – 16:30 Continue: PSC Guidelines for SOLAS III, IV and V	Canada Chile Japan Japan
3	13-mar-2013 Wed	08:30 – 09:00 RECAP 09:00 – 10:30 PSC Guidelines for SOLAS IX & ISM Code 10:30 – 11:00 Coffee Break. 11:00 – 13:00 PSC Guidelines for SOLAS XI-2 & ISPS Code 13:00 – 14:00 Lunch 14:00 – 15:00 PSC Guidelines for LL 15:00 – 15:30 Coffee Break. 15:30 – 16:30 Continue: PSC Guidelines for LL	Australia Japan Japan Japan
4	14-mar-2013 Thu	08:30 – 09:00 RECAP 09:00 – 10:30 PSC Guidelines for MARPOL I & II 10:30 – 11:00 Coffee Break 11:00 – 13:00 Continue: PSC Guidelines for MARPOL I & II 13:00 – 14:00 Lunch 14:00 – 15:00 PSC Guidelines for MARPOL III – VI and AFS 15:00 – 15:30 Coffee Break 15:30 – 16:30 Continue: PSC Guidelines for MARPOL III – VI and AFS	Chile
5	15-mar-2013 Fri	08:30 – 09:00 RECAP 09:00 – 10:30 PSC Guidelines for Human element including STCW.	Australia

		10:30 – 11:00 11:00 – 13:00 13:00 – 14:00 14:00 – 15:00 15:00 – 15:30 15:30 – 16:30	Coffee Break Continue: PSC Guidelines for Human element including STCW. Lunch Continue: PSC Guidelines for Human element including STCW. Coffee Break Continue: PSC Guidelines for Human element including STCW.	
6	16-mar-2013 /Sat		Excursion	Ecuador
7	17-mar-2013/Sun		Free day	
8	18-mar-2013 Mon	08:30 – 09:00 09:00 – 10:30 10:30 – 11:00 11:00 – 13:00 13:00 – 14:00 14:00 – 15:00 15:00 – 15:30 15:30 – 16:30	RECAP PSC Guidelines for Bulk Carrier Coffee Break Continue: PSC Guidelines for Bulk Carrier Lunch Continue: PSC Guidelines for Bulk Carrier Coffee Break Continue: PSC Guidelines for Bulk Carrier	Canada
9	19-mar-2013 Tue	08:30 – 09:00 09:00 – 10:30 10:30 – 11:00 11:00 – 13:00 13:00 – 14:00 14:00 – 15:00 15:00 – 15:30 15:30 – 16:30	RECAP PSC Procedures I (selecting target ships, detention procedure and reporting) Coffee Break. PSC Procedures II (PSCO responsibility appeal procedures.) Lunch Preparation for on-board Inspection (the participants will be divided into some groups) Coffee Break Continue: Preparation for on-board Inspection (selection of ships, etc)	Japan Tokyo MOU
10	20-mar-2013 Wed	08:30 – 13:00 13:00 – 14:00 14:00 – 15:00 15:00 – 15:30 15:30 – 16:30	On-board Inspection by each group ⁱⁱ Lunch Discussion, Preparation for presentation materials Coffee break Continue: Discussion, Preparation for presentation materials.	All instructors will observe the PSC and comment on it later.
11	21-mar-2013 Thu	08:30 – 10:30 10:30 – 11:00 11:00 – 13:00 13:00 – 14:00 14:00 – 15:00 15:00 – 15:30 15:30 – 16:30	Presentation on On-board Inspection by each Group & discussion Coffee Break Continue: Presentation on On-board Inspection by each Group & discussion Lunch Case studies or exercises Coffee break Continue: Case studies or exercises	Participants Participants Instructors Instructors
12	22-mar-2013 Fri	08:30 – 09:30 09:30 – 10:00 10:30 – 11:30 11:30 – 12:30 13:00 – 14:00	Summary of the course Awarding certificate to the participants and Closing Ceremony (Remarks by host Authority and an expert) Coffee Break Lunch Departure of experts and participants	

Note:

- i** Case study or exercise related to the theme of the presentation will be included in each lecture.
- ii** If an enough number of ships are not secured, one half of the participants would go onboard training and the other half would do case studies or virtual PSC.

*** * ***

添付 2

エクアドルでの研修報告書

現地日程表

日	行動	場所
2013年3月9日(土)	移動(成田空港～シカゴ～マイアミ～グアヤキル)	
2013年3月11日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ● 開講式 ● PSCに関する座学研修 	ホテルオロベルデ会議室
2013年3月12日(火)～ 2013年3月15日(金)	PSCに関する座学研修	ホテルオロベルデ会議室
2013年3月16日(土)	市内観光	
2013年3月17日(日)	休日	
2013年3月18日(月)	PSCに関する座学研修	ホテルオロベルデ会議室
2013年3月19日(火)	PSCに関する座学研修 PSC実船訓練準備	ホテルオロベルデ会議室
2013年3月20日(水)	PSC実船訓練(計4隻)及び 実習に関する討論等	グアヤキル港 ホテルオロベルデ会議室
2013年3月21日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ● PSC実船訓練の内容の発表及び講師の講評 ● ケーススタディ等 	ホテルオロベルデ会議室
2013年3月22日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ● 講評 ● 閉講式 	ホテルオロベルデ会議室
	移動(グアヤキル～マイアミ～ロスアンジェルス～成田空港 24日着)	

1. 現地派遣者（敬称略）

講師

- 1) Greg Witherall, Port Marine Surveyor & Examiner of Masters and Mates Unlimited
Ship Safety – North, Ship Safety Division, Australian Maritime Safety Authority (AMSA)
- 2) Jatinder Gill, Senior Marine Inspector, Marine Safety and Security, Compliance and Enforcement, Transport Canada (TME-VAN), Government of Canada
- 3) Roberto Gaete, PSC Officer in Central South District, Chile
- 4) 稲満 豊, 国土交通省 九州運輸局 海上安全環境部 次席外国船舶監督官

コーディネーター

- 1) 秋元 文子 公益財団法人 東京エムオウユウ事務局 業務課長 (Projects Officer)

2. 日程

2.1 開講式

- a) 2013年3月11日（月）午前9時より、グアヤキルのホテルオロベルデ会議室にて開講式が開催された。最初にエクアドル運輸公共事業省(Ministerio de Transporte y Obras Públicas、英語名 Ministry of Transport and Public Works)を代表して、副大臣の **Rodrigo Gonzalez** 氏から祝辞をいただいた。引き続き、グアヤキル海事局（Subsecretaría de Puertos y Transporte Marítimo y Fluvial, 英語名 Undersecretariat of Port, Maritime and River Transportation）の局長、Jessica Madero 氏があいさつをし、東京エムオウユウの協力に感謝の辞が述べられた。
- b) 次に東京エムオウユウ事務局秋元文子が、事務局長挨拶を代読した。事務局挨拶は別紙1のとおりである。
- c) 引き続き **Roberto Gaete** 氏（チリ）が講師陣を代表し挨拶を行った。
- d) このあとエクアドル国内マスコミ向けに記者発表が行われ、**Gonzalez** エクアドル運輸公共事業省副大臣、講師代表として、チリの **Roberto Gaete** 氏、東京エムオウユウ事務局の秋元文子が出席した。事務局へは、東京エムオウユウが南米で研修開催に至った経緯が質問された。事務局は日本財団の助成を得、インド洋 MOU 事務局の要請により、過去3年間インド洋 MOU 地域での研修を行って来たこととその実績、今年度から再び日本財団の助成を得、南米 PSC 地域組織事務局の要請により3年間、南米での研修を行う計画を明らかにした。

2.2 研修参加者及び国際海事機関（IMO）の資金援助

研修参加者は計 18 名で、エクアドルからは 5 名が参加した。エクアドル以外の南米 PSC 地域組織加盟国からは、アルゼンチン 2 名、ブラジル 1 名、チリ 1 名、コロンビア 1 名、パナマ 1 名、ペルー 1 名が参加した。同地域から参加を予定していたボリビアとホンジュラスは出席しなかった。残り 6 名に関しては、IMO が、下記 4 地域の MOU からそれぞれ 1 名ずつ招へいし、参加費用を負担した。6 名の内訳は、以下の通りである。

- キューバ(南米 PSC 地域組織) 1 名
- ベネズエラ(南米 PSC 地域組織) 1 名
- トルコ (黒海 PSC 地域 MOU) 1 名
- ジャマイカ (カリブ海 MOU) 1 名
- インド (インド洋 MOU) 1 名
- トルコ (地中海 MOU) 1 名

IMO の費用で中西部アフリカ PSC 地域組織のナイジェリアから 1 名が参加する予定であったが、参加はなかった。

全参加者リストは、別紙 2 の通りである。

2.3 座学研修

① 時間割

開講式の後、事務局とグアヤキル海事局で事前に合意した時間割に基づき、講義を開始した。なお、時間割は研修開催中に現地での状況等により内容を一部修正し、最終的には別紙 3 とした。

② 各種アレンジ

- a) チリの Robeto Gaete 氏はインドで 2010 年に行われた PSC 研修で講師の経験があり、またスペイン語を母国語とすることから、同氏を今回の研修の講師チームリーダーに任命し、また研修の進行や現地とのコーディネート補佐も引き受けてもらった。
- b) 同時通訳 2 名が終始会場に配置され、スペイン語⇔英語の同時通訳を逐次行った。参加者にはヘッドフォンが配られた。
- c) 全教材は最終日に DVD に収納して参加者全員に配られた。
- d) 座学中机は教室型に配置されており、参加者が毎日座席を代わるよう工夫した。

③ 講義内容

1日目 (3月11日 月曜日)

2.1 に記載された開講関連の行事が終わった後、グアヤキル海事局 (Undersecretariat of Ports and Sea & River Transport) の PSC 官、Capt. Juan Claudio Robalino Larrea 氏がエクアドルの PSC に関するプレゼンテーションを行った。続いて秋元文子が、東京エムオウユウの活動に関するプレゼンテーションを行った。

その後、講師及び研修参加者が自己紹介を行った。

その後、Greg Witherall 氏 (AMSA) が、MARPOL, LL, STCW, COLREG, Tonnage, AFS IMO Resolution A. 1052(27)の PSC 関連条約の概要に関する講義を行った。

休憩をはさみ、再び Whiterall 氏 (AMSA) が ILO 2006 年海事労働条約の講義を行った。

2日目 (3月12日 火曜日)

Greg Whiterall 氏が講義開始前、昨日の自身の MLC 2006 に関する講義の際受けた質問について回答した。次に Jatinder Gill 氏が前日の講義・演習で最も印象に残ったもの、不明な点について参加者からの発言を求めたが、研修生からは発言はなかった。Jatinder Gill 氏は、"silly questions"は存在しないので、積極的に質問することによる、活発な討議を促した。

引き続き、Jatinder Gill 氏が以下の講義を行った。

- SOLAS 第 I 章 (一般規定)
- 同条約第 II-1 章 構造 (構造、区画及び復元性並びに機関及び電気設備)

この辺りから、参加者は積極的に質問をするようになった。スペイン語が母国語の参加者は臆せずスペイン語で質問し、講師を問わずチリの Gaete 氏が英語に訳し、講師からの英語での解答をスペイン語に直し、質問者に伝えるという方法を取った。

昼食をはさみ、その後、Gill 氏が以下の講義を行った。欠陥の箇所の写真も多数使用した実践的講義となった。

- 同条約第 II-2 章構造 (防火並びに火災探知及び消火)

休憩後、Roberto Gaete 氏 (チリ) が、以下の講義を行った。

- 操作要件 (Operational Requirements)

その後、稲満 豊氏 (国土交通省) が、以下の講義を行った。

- 同条約第 III 章 救命設備

3 日目 (3 月 13 日 水曜日)

講義開始前、稲満氏が昨日の自身の SOLAS 第 III 章について、質問を受け付けた。引き続き稲満氏は以下の講義を行った。

- 同条約第 IV 章 無線通信

この日は稲満氏の講義が大半だったので、講義の順番を若干替え、休憩後、Greg Witherall 氏が以下の講義を繰り上げて行った。

- 同条約 IX 章及び ISM コード

この日は前日に増して、質問が活発になってきた。Gaete 氏は引き続き通訳し、他の講師陣は、Witherall 氏の回答を補足したり、見解を伝えたり、講師間のチームワークの成果も出始めた。

Witherall 氏は、事例研究を 3 題出題し、研修生講師間・研修生間で積極的なやりとりが展開された。

休憩をはさみ、稲満氏が、以下の講義を行った。

- 同第 V 章 航行の安全

引き続き、稲満氏が、以下の講義を行った。途中で昼食をはさんだ。

- 同 X1-2 章及び ISPS コード 海上の安全性を高めるための特別措置第 2 規則及び国際保安コード

上記講義終了後、講義だけでは飽きるだろうと、Greg Witherall 氏 (AMSA) が、欠陥個所の写真を十数枚見せ、参加者に欠陥を指摘させたり、自身で説明したりする実践的な授業を展開した。Witherall 氏は、客観的証拠を残す等のために許可を得た上で、積極的に写真やビデオを撮ることを勧めた。

(Load Lines 集中講義)

その後、稲満氏が、南米 PSC 地域組織事務局から要請のあった、3 つの集中講義のうち、満載喫水線に関する国際条約(International Convention on Load Lines, 1966)に関する集中講義を行った。集中講義の実施は、過去 3 年間のインド洋 MOU でのトレーニングにはなかったものである。

4 日目 (3 月 14 日 木曜日)

チリの Roberto Gaete 氏は、MARPOL 条約に関する講義開始前、MARPOL に関連する欠陥の写真を数十枚用いて、参加者に欠陥箇所を指摘させる演習を行った。

引き続き、Gaete 氏が、昼食・休憩をはさみながら、以下の講義を行った。

- MARPOL 付属書 I 油による汚染の防止のための規則
- 同付属書 III 容器への収納の状態で海上において運送される有害物質
- 同付属書 IV 船舶からの汚水による汚染の防止のための規則
- 同付属書 V 船舶からの廃物による汚染の防止のための規則
- 同付属書 VI 船舶からの大気汚染防止のための規則

5 日目 (3 月 15 日 金曜日)

講義開始前、参加者全員がひとりずつ、これまでの講義で印象に残ったこと等を発表する機会を設けた。それぞれが、印象に残った講義、新しく習得した知識、講師への感謝・讚美、他国の PSC 官との交流・意見交換の場を与えられたことに対する感謝の辞、2 週目の実務的な研修への期待等を述べた。チリの Roberto Gaete 氏が各発表に対してコメントした。

(人間工学集中講義)

続いて、その後、Greg Witherall 氏(AMSA)が、Viña del Mar Agreement 事務局から要請のあった、3 つの集中講義のうち、PSC における人間工学(Human Factors)に関する講義を行った。集中講義では、「1978 年の船員の訓練及び資格証明並びに当直の基準に関する国際条約 (STCW)」の関連箇所にも触れた。Witherall 氏は、一般的な人間工学にも触れ、参加者からは好評を博した。休憩・昼食をはさみ、講義は続いた。

午後の休憩後、Roberto Gaete 氏が、以下の講義を行った。

- 2001 年の船舶の有害な防汚方法の規制に関する国際条約 (AFS 条約)

6 日目 (3 月 18 日 月曜日)

Roberto Gaete 氏の先導で、前週のまとめを行った。

(ばら積み貨物船集中講義)

Jatinder Gill 氏(カナダ)が、Viña del Mar Agreement 事務局から要請のあった、3 つの集中講義のうち、ばら積み貨物船 (Bulk Carriers) に関する講義を行った。休憩・昼食をはさみ、講義は続いた。

(チリの欠陥事例の紹介)

上記集中講義終了後、チリ講師 Roberto Gaete 氏が、チリで指摘した欠陥事例を、写真を

共に紹介した。

(救命艇操作要領の視覚教材)

その後、オーストラリア講師 **Greg Witherall** 氏が、救命艇の操作要領のビデオ等を利用して救命艇の負荷離脱装置の正しいリセット方法、落下の危険性等を説明した。

7日目 実船訓練 (3月19日 火曜日)

稲満 豊氏が、以下の講義を行った。この日の時間割は、翌日の実船訓練を意識したものとした。

- PSC の手順(PSC procedures)

実際の PSC の手順を、写真を交えながら、説明した。

続いて、以下の講義を行った。

- PSC 職員の責任(PSCO Responsibility and Code of Good Practice) (Gill 氏-カナダ) と船主・旗国等からのアピール (不服申し立て) への対応 (稲満氏-日本)

- Virtual PSC

チリ講師 **Roberto Gaete** 氏による、仮想 PSC が行われた。これにより、翌日の PSC 実習を意識した授業で、参加者は PSC を机上で模擬体験した。

④ 座学研修中の状況と課題

a) 研修参加者

i. エクアドル からの参加者 (5名)

PSC は 2012 年 3 月に海軍から移譲された。正式参加登録をしていた 5 人のうち、2 名は商船乗船勤務経験者、2 名は造船技師、1 名は海軍出身者であった。このほか、オブザーバーとして、毎日 2-3 名が入れ替わり参加していた。どの参加者も船の知識は十分に持ち合わせているものの、PSC の経験は乏しいように見受けられた。エクアドルにおいて、PSC は過渡期である印象を受けた。

ii 南米 PSC 地域組織地域内からの参加者 (9名)

アルゼンチン 2 名、ブラジル 1 名、チリ 1 名、コロンビア 1 名、キューバ 1 名 (IMO 費用負担)、パナマ 1 名、ペルー 1 名、ベネズエラ 1 名 (IMO 費用負担) 合計 9 名が参加した。アルゼンチンからの参加者は比較的 PSC の経験がある印象を持った。ブラジルからの参加者 (スペイン語及び英語に堪能)

は活発に質問をしていた。

iii 他地域からの IMO 招へい者（4名）

トルコ2名、ジャマイカ1名、インド1名計4名であったが、インドからの参加者はPSCの知識が豊富のよう見受けられた。

b) 講師の工夫

i 教材

予定より早く講義が終わると、講師はそれぞれ手持ちの教材を工夫して、ケーススタディ等実践的な演習を臨機応変に行った。欠陥事例の写真やビデオを準備していたので、臨機応変に教材とすることができた。

ii 前日の復習

毎日講義開始前、Roberto Gaete氏が前日の講義・演習に対する質問の時間を取った。これは参加者の知識の定着に効果的だったようだ。

iii 講師ミーティング

一日の講義終了後、講師陣と事務局は毎日30分程度のミーティングをし、互いに把握した各研修生の経験やレベルの情報交換や、反省点などを話し合い、翌日の講義に生かすようにした。

iv 対話形式

講師陣は、常に対話形式の活発な授業をするよう心がけた。

2.4 実地研修

グループ分け

今回の参加者の特徴は、PSC経験に差がある、英語が母国語でない者が半数を占めることだった。したがって講師陣は、各参加者全員にPSC経験と英語の習得度について事前に申告してもらい、それを基に経験や英語力が偏らないように、3月13日水曜日にミーティングを持ち、事前に組み分けをした。講師4人が1グループずつ担当するよう、計4グループに分けた。

実船訓練実施要領

①3月19日（火）の講義終了後、翌3月20日（水）に実施予定の実船訓練の実施要領について、エクアドル当局との打ち合わせ内容を踏まえ、講師を代表してRoberto Gaete氏が下記の通り説明した。

- a) 実習船計 4 隻の確保が可能。参加者は 4 グループ（エクアドルの PSC 官 1 – 2 名を含む）に分かれ、講師は各グループにそれぞれ入る。
- b) 講師やエクアドル以外の参加者は、エクアドル国内で PSC を行う権限がないため、エクアドルの PSC 官の PSC を観察するのみとし、気付いた点は訓練終了後の討論会で指摘する。
- c) PSC 後はグループ毎にレビューを行い、実習中の疑問等を解決する。
- d) 実習の翌日、グループ毎に、PSC の手順に沿って発表を行う。そのため、あらゆる箇所の写真を取ることが必須。
- e) カメラはエクアドル PSC 職員 1 名が持参し、グループを代表して撮影する。

8 日目 実船訓練（3 月 20 日 水曜日）

① 実船訓練

4 グループが、それぞれの船（冷凍船 2 隻、一般貨物船 2 隻）で実船訓練を行った。実習船の詳細は別紙 4 の通りである。2 隻の内 1 隻の冷凍船では、3 か月前にグアヤキルで PSC を受けていて、その際欠陥はゼロだったが、今回の訓練中 13 か所の欠陥の指摘があった等、研修の材料となる事柄には事欠かなかった。また講師陣からは、時間配分等改善の余地があるとの指摘もあった。

② 実習のレビュー

下船後の各グループはホテルに戻り、担当講師ともに、実習の内容を振り返った。また翌日のプレゼンテーションも作成し始めた。

9 日目 実船訓練発表及びケーススタディ等（3 月 21 日 木曜日）

① 研修生による実習内容の発表

研修生は実習グループ毎に実習内容をパワーポイント等で作成した。各グループ代表者が、実際行った PSC の手順に従い、写真を用いながら、チェックした箇所、気付いた点、実際に行った処置等を発表した。その後、取った措置が適切なものであったかについて、全参加者が討議した。講師陣は討論を促し、助言や示唆を与え、それぞれの意見に対し講評した。

② ケーススタディ

午後、カナダ講師 Jatinder Gill 氏による、ケーススタディを行った。全講師がそれぞれの担当講義に関するケーススタディを出題する予定だったが、カナダ講師の教材に関して議論が白熱したため、他の 3 人の講師は用意した教材を披露する時間がなかった。

③ 小テストの実施

オーストラリア人講師 Greg Witherall 氏の提案で、全 18 問の小テストを実施した。実船訓練の際の 4 グループが条約集等を参照しながら、討議して回答するという形式を取った。結果はどのグループも約 40%強から 60%強の正解率だった。条約集を参照しないことを条件に講師チームも参加し、約 85%の正解率を記録した。

④ 規則の適用（欠陥の根拠となる条文）

参加者から欠陥の根拠となる条文についての質問が多々出ていたことから、日本人講師稲満 豊氏は、上記①②③実施の際、指摘欠陥の根拠となる条文について、図を描きながら適宜説明した。これは参加者から好評であった。

10 日目講評及び閉講式（3 月 22 日 金曜日）

① 参加者・講師・事務局の講評

参加者、講師がそれぞれ 2 週間を振り返った。参加者は一様に有意義な研修だったと述べ、講師陣の尽力により、活発な授業が展開されたことに対し感謝の辞を述べた。講師もそれぞれ、やり甲斐のある 2 週間だったと述べ、研修で得た知識・経験を同僚に伝えてほしいと述べた。

② 閉講式

その後、閉講式と修了証書授与式が開催された。グアヤキル海事局を代表して海事局長の Jessica Madero 氏から閉会の挨拶があった。その後講師を代表して稲満 豊氏（国土交通省）が挨拶を行った。引き続き、Nydia Delgado 氏による各研修生への修了証書及び講師への感謝状の手交が行われた。2 週間に亘る研修はこれで幕を閉じた。

2.5 研修全体を振り返って

① エクアドルにおける PSC

エクアドルの PSC は、2012 年 3 月に、coastal State, flag State と共に海軍から移譲され、過渡期にある。PSC を行う検査官は現在 10 名おり、内 4 名が海軍から異動、6 名が民間船社や造船畑の出身である。この研修には 5 名が参加した。この研修を機に、今後増員予定である。今回の参加者を観察する限り、ほぼ全員が PSC に関しては経験が浅いもしくは皆無に近く見受けられた。計画では、2013 年 4 月から PSC を強化するそうで、この研修への期待がひしひしと感じられた。今後時間をかけて、国内での研修にも力を入れていくとのことだった。効率的な PSC の実施が可能になるまでには、時間がかかると思われるが、今後の発展のために、このコースが絶好の契機であったことは間違いない。

② 他国からの参加者

他国からの参加者も、初心者が大半であるように見受けられたが、一部の参加者は経験を

積んでいるようだった。彼らのほとんどが、PSC に特化した研修を受けたことがなく、今回の研修に参加できたことを大変喜んでいた。

③ 講師陣の指摘事項

講師陣には別途、講師の立場から今回の研修の評価を書面にて提出してもらった。以下に、それらの講評をまとめたものを示す。

a) 座学

研修生のレベルのばらつきがあったが、全体的に初心者が多かったようだ。このコースは、初心者もしくは中級者向けと限定しているのだから、納得がいく。しかし、初心者がこれだけ多ければ、もっと IMO 総会決議 (A.1052(27)) (PSC 実施要領) 等に時間を割いてもいいと思う。また初心者には、ビデオなどの視覚教材の利用がより効果的である。

b) 実船訓練

エクアドルの PSC を観察した限り、証書チェック等に割いた時間が長く、PSC の時間配分に改善の余地があると感じた。他にも PSC の経験が少ないと思われた箇所が随所に見られた。実船訓練は 1 回だけでなく、2 回以上実船訓練が出来るのが理想だが、初心者には 1 回の訓練が大きなインパクトを与えるので、却って効果的であったかもしれない。特にエクアドルの PSC 官には実船訓練は非常に好評であった。

c) ケーススタディ

- 各設問への取り組みから、観察された状況が欠陥なのかどうか、また、欠陥が重大なものかどうかを短絡的に決めてしまおうとする傾向が見られた。PSC の目的は船舶及びその乗船者への安全上の脅威、または海洋汚染防止に係わる脅威がある場合に当該船舶を出航させないようにすること、判断に際しては、個々に予定されている航海の状況等を十分に評価する必要があることをケーススタディを通じて説明できたのはよかった。
- 小テストを取り入れたが、これが活発な議論を生み出してよかった。また解答までの過程でグループ別の議論も効果的だった。

d) 全般

- 条約等の知識の習得もさることながら、経験が不足している PSCO にとっては実船訓練の回数を増やして、現場検査を多く経験させる方が効果的かもしれない。
- 実船訓練のプレゼンテーションやケーススタディーで示された、欠陥の取り扱いに係わる議論が最も活発であった。参加者のレベルにもよるが、一定レベルに達している参加者用に、ケーススタディー等の充

実を図るのも一考の価値がある。

- 各講師や研修生との話を通じて、欠陥の取り扱いに係わる考え方の違いを知り得る等、講師自身にとっても大変勉強になった。
- 欠陥の記述（Deficiency Writing）演習の時間を取るべきである。
- 日が経つ毎に、研修生間、講師研修生間での議論が活発になっていった。よい傾向である。
- 東京エムオウユウ事務局を含めた講師陣のチームワークのよさが、今回の成功の原因である。

3. 研修全体に対する参加者の講評

別紙 5 に、各研修生の研修全体に対する講評を転記した。非常に有益だったとの声が多かった。内容に関しては、条約の講義も役に立ったし、実践的な演習も為になったとの声が多かった。また他国の PSC 官との意見交換も貴重ととらえる声が多かった。

4. 今後の展望

南米 PSC 地域組織地域での第 1 回の「出前研修」は、ほぼ予定通り終了した。参加した PSC 官が、この研修で得た知識及び経験を活かし、彼らの国と地域において、検査の質の向上を図られることを願っている。今回の研修で、この地域では PSC が発展途上にある国が多いとわかった。今後研修の成果を期待したい。

多くの参加者は、それぞれの地域・国での PSC に特化した研修の必要性和継続性を切々と訴え、引き続き東京エムオウユウの研修に参加したいと語った。今後も東京エムオウユウが引き続き貢献できたらと願う。

東京エムオウユウが培った研修のノウハウが、発展途上にある他地域 MOU 等の手助けになることを改めて実感した。今回の研修が好評を博し、成功裏に終わったのは、講師としてご協力いただいた、AMSA の Greg Witherall 氏、カナダの Jatinder Gill 氏、チリの Roberto Gaete 氏、国土交通省の稲満 豊氏のご尽力の賜物に他ならない。特に Roberto Gaete 氏に時には通訳もお願いし、多岐にわたりご貢献いただいた。各講師からも講師として参加したことは”rewarding”であったという感想をいただいた。この場を借りて各講師に深く感謝を申し上げたい。同時に、今回の研修のホストであったクアドル運輸公共事業省、実際の運営に携わったエクアドル海事局、共催者である南米 PSC 地域組織事務局と国際海事機関（IMO）の全面的な協力があったこそ、円滑に実現ができた。改めてお礼を申し上げたい。

研修会場に飾られたバナー



開講式（2013年3月11日）風景



運輸公共事業省副大臣挨拶



エクアドル海事局長挨拶



東京エムオウユウ事務局挨拶



Roberto Gaete 氏（チリ）講師代表挨拶

開講式 (2013年3月11日)



記者発表



集合写真

講師陣と事務局



講義風景



講師 Greg Witherall 氏 (AMSA)

講義風景



講師 Jatinder Gill 氏 (Transport Canada)



同時通訳 (スペイン語⇔英語)

講義風景



講師 Roberto Gaete 氏 (チリ)



受講者



講師 稲満 豊氏(国土交通省)

実船訓練(2013年3月21日)





実船訓練の討論・プレゼンテーション作成



実船訓練のプレゼンテーション



グループ毎の小テスト

閉講式 (2013年3月22日)



稲満氏による講師代表挨拶



海事局長の挨拶



修了証書授与



講師への感謝状授与

研修の様子を伝える現地メディアの記事一例



Secretaría de Puertos analiza deficiencias en la inspección de buques

Enviado por Henry Ortiz en Lun, 03/18/2013 - 16:07



Representantes de puertos de América disertan en los salones del hotel Oro Verde de Guayaquil.

Guayaquil, 18 mar (Andes).- Las reglas para prevenir contaminación por hidrocarburos que transportan buques tanqueros por los mares y la aplicación de las regulaciones de MARPOL, fue el tema de la cuarta jornada del curso regional para inspectores marítimos que organiza la Subsecretaría de Puertos y Transporte Marítimo y Fluvial, desde la semana anterior en Guayaquil.

En este punto, el conferencista chileno Roberto Gaete, explicó con ejemplos las deficiencias durante la inspección de buques por el Estado Rector del Puerto, las situaciones que se presentan y la aplicación de las reglas, resoluciones y directrices que se establecen en los convenios internacionales de los que son signatarios los países a los que representan, como SOLAS (seguridad humana en el mar) y MARPOL (prevención de la contaminación del mar por hidrocarburos).

Para el efecto, manifestó Gaete, los inspectores deben considerar los requerimientos operativos que regulan la prevención de la contaminación cuando los buques están en áreas especiales, entre las que se consideran el mar Mediterráneo, Báltico, Negro, Rojo, la Antártida, el norte de Europa y el sur de África.

Ante estas situaciones, los inspectores deben revisar el libro de registro o record book, instalaciones de equipos de filtro, conexiones estándar de descargas, operaciones de sustancias peligrosas, entre otras regulaciones, que tiene el propósito de evitar que se produzcan incidentes graves.

Dijo que durante las operaciones de descarga de petróleo que se realizan en tanqueros que transporta entre 150 y 400 toneladas de petróleo, obligatoriamente deben tener un Plan de Emergencia contra la contaminación del hidrocarburo, “esta situación, señaló Gaete, en base a las reglas para prevenir la contaminación de los buques”.

La información y el contenido multimedia, publicados por la Agencia de Noticias Andes, son de carácter público, libre y gratuito. Pueden ser reproducidos con la obligatoriedad de citar la fuente.

<http://www.andes.info.ec/economia/secretaria-puertos-analiza-deficiencias-inspeccion-buques.html>

別紙 1

東京エムオウユウ事務局による開会の挨拶

Sr. Rodrigo Gonzalez, Videministro de Gestión de Transporte y Obras Públicas,
Ecuador

Abogado Jessica Madero, Subsecretaria de Puertos Transporte Marítimo y Fluvial,
Officers and Staff of Subsecretaria de Puertos y Transporte Marítimo y Fluvial
Trainers
Instructors from Australia, Canada, Chile and Japan

PSC officers from Ecuador, Argentina, Bolivia, Brazil, Chile, Colombia, Cuba,
Honduras, Panama, Peru, Venezuela, Nigeria, Turkey, Jamaica and India

Ladies and Gentlemen,

On behalf of Mr. Mitsutoyo Okada, Secretary of the Tokyo MOU Secretariat, I would like to express my sincere appreciation to Ministerio de Transport y Obras Públicas and Subsecretaria de Puertos y Transporte Marítimo y Fluvial for inviting us to the first training course on Port State Control in Viña del Mar Agreement region. We have come over here to share PSC procedures and experiences with you.

It is no longer necessary to emphasize how important and effective PSC is in maritime safety and security. The world has been identifying the importance and the significance of PSC, and it is for this reason that as many as nine PSC regimes have been established in the world so far. Each of the PSC regimes is making continued effort to have uniformed PSC procedures applied in its own region and to have them in common.

In the Tokyo MOU, unlike the Paris MOU, our members have a variety in the development in PSC, and therefore the Port State Control Committee in our MOU pays special attention to the development of training for PSC officers in our region. As a result, in recent years, the number of inspections in the Tokyo MOU has been recorded much the same as that of the Paris MOU. At the same time know-how of organizing and implementing trainings has been accumulated in the Tokyo MOU.

Other than trainings for PSC officers in the Tokyo MOU region, the Tokyo MOU had a challenge to organize a PSC training course four times in the Indian Ocean MOU region for three years from 2009 to 2011 at the request of the Indian Ocean MOU Secretariat. All of the training were successfully completed. Today we are here to organize the

first PSC training at the request of the Secretariat of Acuerdo Viña del Mar, not because we are rich, but we felt the imminent need to strengthen inter-regional cooperation among the MOUs for enhancing standardization of PSC procedures in the world, since ships are sailing across regional MOUs. We are here to share with you, based on the IMO Resolution A.1052 (27), common understanding and interpretation of conventions and regulation relevant to PSC. IMO shares the view and since the third PSC training course in the Indian Ocean MOU region in 2011, the Organization has kindly provided funds to participants from other PSC regimes.

This PSC training course in Ecuador is the first one in our three-year project of technical cooperation with the Viña del Mar Agreement region. The Tokyo MOU Secretariat would like to take this opportunity to express its sincere appreciation to the Secretariat of Viña del Mar Agreement for their initiatives.

As instructors for this course, we invited four: from Australia, Canada, Chile and from Japan. I, Fumiko Akimoto of the Tokyo MOU Secretariat, is here as coordinator.

I hope the training will be fruitful and all of us will have a good time here for two weeks. I, on behalf of the Tokyo MOU Secretariat, would again like to thank Ministerio de Transport y Obras Públicas and Subsecretaria de Puertos y Transporte Marítimo y Fluvial to host this training and its staff who have been working hard behind the scene to organize this training.

Thank you for your attention.

* * *

別紙 2
参加者リスト

1. エクアドルからの参加者 (5名)

1	Mr. Enrique Alberto Valle Navarrete
2	Mr. Freddy Angel Cordova Donoso
3	Mr. Galo Dionicio Paredes Torres
4	Mr. Javier Eduardo Lavayen Saltos
5	Mr. Juan Claudio Robalino Larrea

2. Viña del Mar 地域エクアドル以外からの参加者 (9名)

6	Mr. José Luis Gutierrez	アルゼンチン
7	Mr. Carlos René Mafka	アルゼンチン
8	Mr. Monteiro Braulio Esteves	ブラジル
9	Mr. Hans Ekdahl Espinoza	チリ
10	Mr. Arrazola Hernández Gustavo Adolfo	コロンビア
11	Mr. Julio Omar Morales Encionsa	キューバ (IMO 費用負担)
12	Mr. David Miranda Silgado	パナマ
13	Mr. José Antonio Chávez Campodonico	ペルー
14	Mr. Gustavo Javier Flores	ベネズエラ (IMO 費用負担)

3. 上記以外からの参加者 (IMO 費用負担) (4名)

15	Mr. Ahmet Mert	Black Sea MOU	トルコ
16	Mr. Marcus Magnus Michael Clifford Blake	Caribbean MOU	ジャマイカ
17	Mr. Ashish Marotrao Wankhede	Indian Ocean MOU	インド
18	Mr. Ahmet Apak	Mediterranean MOU	トルコ

別紙 3
時間割

Date		Activity and Subject	Instructor
	10-mar-2013/Sun	Arrival of experts and participants	Reception at airport by Ecuadorian Authorities
1	11-mar-2013 Mon	08:30 – 09:00 Meeting with the host Authority 09:00 – 10:30 Opening Ceremony and Introduction (Remarks by host Authority, TMS and an expert; and self introduction of participants) 10:30 – 11:00 Coffee break 11:00 – 12:00 PSC activities in Ecuador (Presentation of Ecuador about PSC) 12:00 – 13:00 Topics of Tokyo MOU 13:00 – 14:00 Lunch 14:00 – 15:00 Relevant Instrument Overview (SOLAS, MARPOL, LL, STCW, COLREG, Tonnage, AFS) 15:00 – 15:30 Coffee Break. 15:30 -- 17:00 Relevant Instrument Overview (IMO Resolution A. 1052(27) and MLC2006)	Ecuador Tokyo MOU Australia Australia
2	12-mar-2013 Tue	08:30 – 08:45 RECAP 08:45 – 10:30 PSC Guidelines for SOLAS I 10.30 – 11:00 Coffee Break 11:00 – 12:00 PSC Guidelines for SOLAS II-1 12:00 – 13:00 PSC Guidelines for SOLAS II-2 13:00 – 14:00 Lunch 14:00 – 15:00 Continue: PSC Guidelines for SOLAS II-2 15:00 – 16:00 Operational Requirements 16:00 – 17:00 PSC Guidelines for SOLAS III	Canada Canada Canada Canada Chile Japan
3	13-mar-2013 Wed	08:30 – 08:45 RECAP 08:45 – 9:20 PSC Guidelines for SOLAS IV 09:20 – 09:30 Coffee Break 09:30 – 11:00 PSC Guidelines for SOLAS IX & ISM Code 11:00 – 11:30 Coffee Break 11:30 – 12:40 PSC Guidelines for SOLAS V 12:40 – 13:00 PSC Guidelines for SOLAS XI-2 & ISPS Code 13:00 – 14:00 Lunch 14:00 – 14:30 Continue: PSC Guidelines for SOLAS XI-2 & ISPS Code 14:30 – 14:40 Coffee Break 14:40 – 14:50 Exercise (deficiency photos) 14:50 – 17: 00 PSC Guidelines for LL	Japan Australia Japan Japan Japan Australia Japan
4	14-mar-2013 Thu	08:30 – 08:50 Exercise (deficiency photos) 08:50 – 10:00 PSC Guidelines for MARPOL I 10:00 – 10:30 Coffee Break 10:30 – 11:30 PSC Guidelines for MARPOL II 11:30 – 12:00 Coffee Break 12:00 – 13:00 Lunch 13:00 – 15:00 PSC Guidelines for MARPOL III & IV 15:00 – 15:15 Coffee Break 15:15 – 15:30 PSC Guidelines for MARPOL V	Chile Chile Chile Chile Chile Chile

		15:30 – 15:50 15:30 – 17:00	Coffee Break PSC Guidelines for MARPOL VI	Chile
5	15-mar-2013 Fri	08:30 – 09:00 09:00 – 10:30 10:30 – 11:00 11:00 – 13:00 13:00 – 14:00 14:00 – 15:00 15:00 – 15:30 15:30 – 16:00	RECAP PSC Guidelines for Human element including STCW. Coffee Break Continue: PSC Guidelines for Human element including STCW. Lunch Continue: PSC Guidelines for Human element including STCW. Coffee Break PSC Guidelines for AFS	Australia Chile
6	16-mar-2013 /Sat		Excursion	Ecuador
7	17-mar-2013/Sun		Free day	
8	18-mar-2013 Mon	08:30 – 09:00 09:00 – 10:30 10:30 – 11:00 11:00 – 13:00 13:00 – 14:00 14:00 – 15:00 15:00 – 15:30 15:30 – 16:30	RECAP PSC Guidelines for Bulk Carrier Coffee Break Continue: PSC Guidelines for Bulk Carrier Lunch Lifeboat Safety Coffee Break Deficiencies detected in Chile	Canada Australia Chile
9	19-mar-2013 Tue	08:30 – 09:00 09:00 – 10:30 10:30 – 11:00 11:00 – 12:00 12:00 – 13:00 13:00 – 14:00 14:00 – 14:30 14:30 – 15:00 15:00 – 15:30 15:30 – 16:00 16:00 – 16:20 16:20 – 17:00	RECAP PSC Procedures I (selecting target ships, detention procedure and reporting) Coffee Break. Continue: Procedures I (selecting target ships, detention procedure and reporting) Lunch PSC Procedures II (Code of Good Practice) Lunch Continue: PSC Procedures II (Code of Good Practice) PSC Procedures II (appeal procedures) Coffee Break Preparation for on-board Inspection (the participants will be divided into some groups) Virtual PSC Continue: Preparation for on-board Inspection	Japan Japan Canada Canada Japan Chile
10	20-mar-2013 Wed	07:30 – 14:45 14:44– 15:30 15:30 – 17:00	On-board Inspection by each group Lunch Discussion, Preparation for presentation	All instructors will observe the PSC and comment on it later.
11	21-mar-2013 Thu	08:30 – 10:30 10:30 – 11:00 11:00 – 12:30 12:30 –13:30 13:00 – 14:00 14:00 – 14:30	Presentation on On-board Inspection by each Group & discussion Coffee Break Continue: Presentation on On-board Inspection by each Group & discussion Case Study Lunch Continue: Case study	Participants Participants Canada Canada

		14:30 – 15:30	Quiz	Australia
12	22-mar-2013 Fri	08:30 – 09:30 09:30 – 10:00 10:30 – 11:30 11:30 – 12:30 13:00 – 14:00	Summary of the course Awarding certificate to the participants and Closing Ceremony (Remarks by host Authority and an expert) Coffee Break Lunch Departure of experts and participants	

* * *

別紙 4
実船訓練船リスト

実施日：2013年3月21日（水）

グループ 1（同行者：Gret Witherall 氏(AMSA)）

Name	IMO No.	Type	GRT	Flag	Year of Build	Class	Detention
ANDALUCIA STAR	8816170	Reefer	11,658	Bahamas	1991	DNV	No

グループ 2（同行者：Jatinder Jill 氏(Canada)）

Name	IMO No.	Type	GRT	Flag	Year of Build	Class	Detention
CAPE TOWN STAR	9019119	Reefer	10,614	Bahamas	1993	DNV	No

グループ 3（同行者：稲満 豊(国土交通省)）

Name	IMO No.	Type	GRT	Flag	Year of Build	Class	Detention
CIELO DI CAPALBIO	9595151	Bulk Carrier	23,000	Liberia	2012	RINA	No

グループ 4（同行者：Roberto Gaete 氏(チリ)）

Name	IMO No.	Type	GRT	Flag	Year of Build	Class	Detention
CARL OLDENDORFF	9249025	Bulk Carrier	19,882	Portugal	2002	GL	No

別紙 5
研修生の研修全般に対する講評
(スペイン語表記のものは転記省略)

Participant from Brazil

In general the course was very appropriate. The material, support, relationship, translator, etc were amazing. I think that the weak point is log of information every day but restrict only lecture of the text, something I've lack of discussion or suggestions from the experts.

Participant from Chile

The topics learned training this course were exactly what a PSCO needs to know about maritime regulations. The lectures and experiences of the experts were very important and useful for the performance of the PSCOs. For a better communication it's important the use of a common language, in this case, English.

Participant from Cuba

It is very important to update the PSC procedures, to take account of the amendments to the IMO instruments which have entered into force or have become effective since the adoption of Resolution A. 1052 (27).

Participant from Ecuador

Topics were solved. Thanks to all the trainers.

Participant from Ecuador

Only want to say thank you for this. Great training. It is very useful for us (Ecuador) in this difficult transition in which we are.

Participant from Panama

My opinion of the course was very completed. The instructors have a good knowledge and experience to explain different topics. One of the most important things was the interchange of opinion of the different countries with the finally point is to be consist in our jobs.

Participant from Peru

Excellent.

Participant from Turkey 1

In my opinion, this training was too important for to share experiences by all participants and all lecturers. Tokyo MOU system is understood more closed by Turkish participants. Thank you very much for this course, your cooperation and your interest to us.

Participant from Jamaica

I found session to be well organized and the day to day activities to be well coordinated.

Participant from Turkey 2

This training course is really useful. I would like to be in this kind of organizations all educations was different and necessary preparation. Thank you for new information and .
